

教育・子育て （４件）

●小学生の娘が通学路でひき逃げにあった。市でも子どもたちの安全のために具体的な対策をお願いしたい。

市では、毎年、小・中学校の通学路危険箇所について調査をしており、学校から危険箇所として報告のあった箇所について、関係機関（伊達警察署、保原土木事務所、市建設部土木課、市こども未来課、各総合支所、学校、市学校教育課）で合同点検を実施しております。今回ご指摘あった箇所につきましては、改めて合同点検を実施いたします。そこで、先ほどの関係機関と連携し、登下校時の車の通行状況を把握し、適切な対応をしていただくよう働きかけてまいります。

（担当 学校教育課）

●夫の転勤で転々としてきたが、伊達市を拠点にするため家を購入し、４月より転入した。私は子どもが３人いて、つい、ほかの地域と住みやすさを比べてしまう。入学の際の祝い金やコロナ禍の独自の支援、プレミアム商品券の配布など、ほかの地域は子が多い家庭を救ってくれた。伊達市でも長く住んでいけるような支援があると助かる。

市の子育て支援につきましては、放課後児童クラブ、大型遊具のある子どもの遊び場、認定こども園などを設置し、子育てしやすい環境の充実を図っています。

伊達市版ネウボラ事業では、妊娠期からの切れ目のない支援として、ネウボラ保健師・助産師がすべての未就学児の子育て世帯とかかわりを持って支援しています。育児グッズをつめ合わせた育児パッケージの贈呈や、出産されたお母さんに対しお祝いとして５万円を支給する出産育児一時金支援事業、他には、出産祝い金事業として、第３子以降の出産に対し５０万円支給などの子育て支援を行っております。市では各種の子育て支援事業を実施しておりますが、今後、子育て支援が市民の方々にご理解いただけるよう工夫をしてまいります。

（担当 こども未来課）

●伊達市に家族で引っ越してきて３年になる。助成や施設が充実して住みやすいと感じているが、子どもの通学について心配な点がある。夏は猛暑日が続く中、朝と夕方、片道３０分歩かせることは心配ではない。毎日車で送迎もできないため、中学生の自転車通学許可範囲を広げることを検討いただきたい。１．５km以上または夏季限定で自転車通学を許可していただきたい。

伊達市内中学校の自転車通学許可範囲については、各中学校の立地条件、交通事情、そして何よりも安全面を第一に考え、各中学校で許可条件を設定しています。そのため、市内一律に「１．５km以上で許可」等とすることは難しいと考えます。徒歩通学、自転車通学を含め、安全な登下校ができているかどうか、自転車通学許可規定が現在の学校の状況にあったものになっているかどうか、学校ごとに今一度点検するようにいたします。

（担当 学校教育課）

●伊達市で分娩できる産科・産婦人科を設立していただきたい。福島市に出ないと妊婦健診や分娩ができず、雪の多い時期は悪天候の中、身重の体で１時間雪道を運転し、月に２回や毎週通院が必要になる。体が冷えたりストレスや刺激を受けると、流産や早産のリスクも高まってしまう。４号線沿いは除雪も早い総合病院しかなく、土日はやっていないため、通院だけで有給を消化し、仕事と妊婦生活の両立がかなり辛い。

令和２年３月に市内の産科医療機関が閉院となり、伊達市といたしましても市内唯一の産科として支援等を行ってまいりましたが、閉院となったことについて、大変残念に思っております。

当該医療機関の閉院後は、近隣の医療機関をご利用いただいておりますが、妊娠中の方には、不安なく出産に臨めるよう伊達市ネウボラ保健師を置くなど、妊娠、出産、育児まで切れ目のない支援体制を整えております。

少子化や医師不足等により、産科の医療機関設置は全国的に厳しい状況であります。伊達市といたしましても地域医療確保に向け、関係機関と連携し進めてまいります。

（担当 健康推進課）